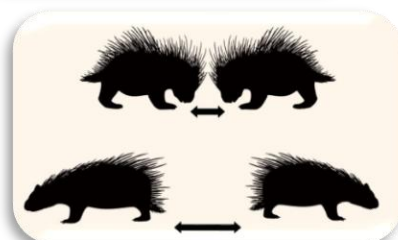


6月10日(水) 「思いやりの距離感」

6月の全校朝会では「ヤマアラシのジレンマ」という寓話を通して、人間関係について生徒たちと一緒に考えてみました。以下、生徒に話した内容です。



皆さん、今日は一つの寓話を通して、人間関係について考えてみたいと思います。

舞台は、雪深い冬の森。冷たい風が木々を揺らし、雪は静かに、しかし絶え間なく降り続けています。その中で二匹のヤマアラシが、寒さに震えていました。生き延びるために、二匹は体を寄せ合おうとします。けれども、近づけば近づくほど、お互いの鋭い針が相手の体を刺し、痛みを与えてしまいます。「これでは一緒にいられない」と離れると、今度は寒さが容赦なく襲い、体温は奪われていきます。二匹は何度も試しました。近づいては痛み、離れては寒さに震える。その繰り返しの中で、やがて二匹は「これなら痛くない」「これなら温かい」という距離を見つけました。**それが、二匹にとっての最適な距離だったのです。**

この寓話は、哲学者ショーペンハウアーが語り、心理学者フロイトが人間関係の比喻として引用した「ヤマアラシのジレンマ」です。

この物語は、私たちの人間関係にもそのまま当てはまります。仲良くなりたいと思って距離を縮めすぎると、意見の違いや価値観の衝突で相手を傷つけてしまうことがあります。逆に、距離を取りすぎると、孤独や疎外感が生まれ、信頼関係が築けません。学校生活は、同じ空間で多くの時間を共有する場です。クラスメイト、部活動の仲間、先生・・・それぞれとの関係において「近すぎず、遠すぎない距離」を見つけることが、心地よい人間関係を築く鍵になります。

ここで、皆さんに「適切な距離感を見つけるための5つのヒント」を伝えます。

1. 違いを受け入れる

一人一人考え方や価値観が違うのは当たり前です。違いを否定するのではなく、「そういう考えもあるんだ」と受け止める姿勢が、相手との関係を柔かくします。お互いに心地よい関係を築くためには、**自分自身を知ることと他人が自分とは違う人間だと理解することが大切です。**

2. 相手の立場に立って考える

自分の言葉や行動が、相手にどう受け止められるかを想像する習慣を持ちましょう。自分が平気なことでも、相手にとっては嫌なことかもしれないし、逆に相手は深く考えていないことでも、自分は気になってしまうことだってあります。

3. 状況に応じて距離を調整する

近づくべき時と、あえて距離を置くべき時があります。相手の状況や気持ちを感じ取り、距離感を変える柔軟さを持ちましょう。

4. 自分の心を大切にする

相手に合わせすぎて、自分が疲れてしまう関係は長続きしません。自分の意見や感情を穏やかに伝える勇気を持ちましょう。

5. 時間をかけて関係を育てる

信頼は一瞬では生まれません。少しずつ距離を縮め、相手を理解し、自分も理解してもらう過程を大切にしましょう。そのために、相手の言葉に丁寧に耳を傾け、自分の気持ちを整理し、真摯に伝えることを心掛ける、そういった人間関係の基本が一番大事です。

次に、実際の学校生活では、どんな場面が考えられるでしょうか。一緒に考えてみましょう。

● 授業やグループワーク

意見が食い違ったときは、どうすればよいでしょうか？

まず、相手の話を最後まで聞く。その上で、自分の意見を落ち着いて伝える。

● 部活動

厳しい練習の中では、友達のことを考える余裕なんてないかもしれません。

でも、そんなときこそ、励ましや感謝の言葉を忘れないでいたいものです。「ありがとう」「お疲れさま」の一言が、友達との関係を温めます。

● 友人関係

毎日一緒にいることだけが、仲の良さではありません。

時には距離を置く時間も必要かもしれません。なぜなら「最適な距離」は、固定されたものではないからです。人間関係は生き物のように変化します。ある時期は近くにいることが心地よくても、別の時期には少し距離を置く方が良い場合もあります。

例えば、受験期や大きな大会前など、個人の集中が必要な時期には、あえて距離を取ることが相手への思いやりになることもあります。逆に、困難や失敗に直面している時には、そっと寄り添う距離感が必要となります。

ヤマアラシのジレンマは人間関係の本質を教えてくれます。近づきすぎても、離れすぎても、人間関係はうまくいきません。大切なのは、お互いが心地よくいられる距離を見つけ、その距離を保ち続けることです。そのためには、互いを思いやり、温かく支え合い、互いを尊重し合うことが大切です。皆さんが、これからの学校生活で、お互いに「思いやりの距離感」を築いていくことを心から願っています。

6月10日（水） 「学年花壇作り」



毎年、1～3年生の各学年で学年花壇作りをしています。これは南中学校の伝統で、「学校に通う全校の児童生徒、職員、そして来校していただく方々の気持ちが晴れやかになるように」と始めた取組だそうです。

今日は、「梅雨の合間の晴れ」ということもあり、全学年が一斉に花を植えていました。この後、当番を決めて水やりなどの世話をしていきます。通年の花壇の維持には、生徒の頑張りとともに、陰で支えてくださっている管理員さんたちの力添えがあることも忘れずにたいです。たくさんの人の協力のおかげで伝統は続いています。

6月11日（木） 「1年生 理科授業参観」



1年生が入学してきてから、2カ月が過ぎました。「中学校生活に慣れたかな。」「困っていることはないかな。」と小・中学校の職員は、いつも見守っています。今日は、小学校の先生

方から来ていただいて、1学年主任の理科の授業を参観していただきました。初めて使うガスバーナーに緊張しながらも興味津々の生徒たちです。1学年主任の指示をよく聞き、安全に実験を進める姿に小学校の先生方も安心されていました。

小中ですぐに連携が取れるのは、同じ校舎で過ごす強みです。これからも小・中の職員で連携を密に取りながら、児童生徒の指導に当たります。

6月12日（金）「中越地区大会」



.....「1学年だより」より.....

6月12日（金）、13日（土）に中越陸上大会、13日（日）に中越バレーボール大会がありました。全力を出し切れた選手、悔しい思いをした選手、次への新たな目標ができた選手と様々だと思います。そして、自分だけでなく、仲間や先輩のがんばりに刺激を受け、これからの練習への取組姿勢に変えてください。

また、クラブチームや地域移行クラブでの活動がメインとなってきています。いろいろな学校の仲間と切磋琢磨して、競技力だけでなく、スポーツを通じて人間力も高め、大きな目標に向かって練習に励んでほしいと思います!!がんばれ南中生!!